

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3108574号
(U3108574)

(45) 発行日 平成17年4月28日(2005.4.28)

(24) 登録日 平成17年2月16日(2005.2.16)

(51) Int.Cl.⁷

A47G 1/06

F I

A47G 1/06

A

A47G 1/06

E

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2004-6474 (U2004-6474)
(22) 出願日 平成16年11月4日(2004.11.4)(73) 実用新案権者 391054291
株式会社 ミサキ三伸
東京都杉並区和田一丁目9番10号
(74) 代理人 100073324
弁理士 杉山 一夫
(72) 考案者 平林 正一
東京都杉並区和田一丁目9番10号

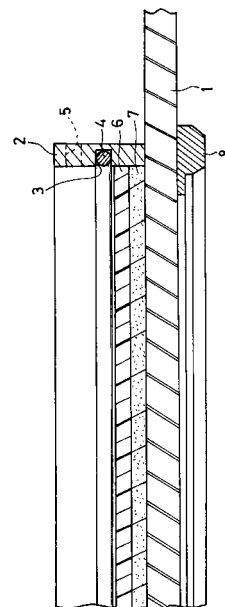
(54) 【考案の名称】 掲示用パネル

(57) 【要約】

【課題】製作に要する手間と時間を従来よりも大幅に軽減し、被掲示物を交換するときにおいてはこれをスピーディーに行うことができると共に裏板の押さえを確実に行うことができ、加えてパネル本体の表面側から保持枠の基部端面が透けて見えることによる安っぽい印象を払拭することができるようにする。

【解決手段】合成樹脂又はガラスで製作される透明なパネル本体1の裏面に、該パネル本体1と同材料からなる方形の保持枠2を接着剤をもって固定する。保持枠2の内面に凹部3を形成する一方、該凹部3にばね材からなる輪状の裏板押さえ4を撓めて嵌め込む。パネル本体1の表面に、保持枠2の形状に合わせた、保持枠2の基部端面を隠すための飾り枠8を取り付ける。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

合成樹脂又はガラスで製作される透明なパネル本体の裏面に、保持枠を設け、該保持枠内において前記パネル本体と裏板との間に絵画等のシート状又は板状の被揭示物を挟み込むようにした揭示用パネルにおいて、前記保持枠を合成樹脂又はガラスによって成形すると共に該保持枠をパネル本体に接着剤をもって固定し、該保持枠の内面における高さ方向の中央部に凹部を形成する一方、該凹部にばね材からなる輪状の裏板押さえを撓めて嵌め込み、更に前記パネル本体の表面に、保持枠の形状に合わせた、保持枠の基部端面を隠すための飾り枠を取り付けたことを特徴とする揭示用パネル。

10

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は絵画等のシート状又は板状の被揭示物を揭示するための揭示用パネルに関するものである。

【背景技術】

【0002】

絵画や組み上がった状態のジグソーパズル等のシート状又は板状の被揭示物を揭示するための揭示用パネルにおいて、従来、合成樹脂又はガラスをもって製作される透明なパネル本体を用い、その裏面に方形の保持枠を設けて、該保持枠内において前記パネル本体と裏板との間に被揭示物を挟み込むようにしたものがある。

20

【0003】

しかし、斯かる従来の揭示用パネルには、次の如き問題点がある。先ず、第1の問題点は、保持枠のパネル本体への固定一体化手段としてネジ止め手段によって行っていることによるものであり、具体的には、パネル本体の表面側から差し込んだネジをもって保持枠を該パネル本体の裏面に固定一体化するものである。この場合にあっては、パネル本体の複数の所定箇所に穿孔する作業と、該孔から差し込んだネジを保持枠にネジ込む作業とが必要であり、販売コストの割に製作に手間と時間がかかり過ぎるという問題点がある。また、ネジの頭部がパネル本体の表面に直接見えることから、見栄えが悪く、安っぽい印象を与えるという問題点もある。

30

【0004】

また、第2の問題点は、裏板の押さえ構造の点にあり、従来にあっては、保持枠の四方の箇所に、該保持枠の内外方向へ回動自在に押さえ片を軸支し、該押さえ片をもって裏板が保持枠から外れないように押さえる構造である。

【0005】

しかし、この場合にあっては、被揭示物を交換するときにおいて、一々四方の押さえ片を、一つ宛裏板が外せる方向に、また押さえる方向に回さなければならず、スピーディーに行うことができないという問題点がある。また、押さえ片は回動自在に軸支されているだけであるから、軽いショックでも簡単に回って向きが変わることがあり、裏板の押さえという点において不安定である。そして、特に被揭示物が組み上がった状態のジグソーパズルである場合には、裏板が外れると全体が崩れてしまう虞があり、安定した確実な押さえが望まれる。

40

【0006】

また、第3の問題点は、パネル本体の表面側から保持枠の基部端面が透けて見えることであり、これにより見栄えが悪く、安っぽい印象を与えるという問題点である。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0007】

本考案は上記の点に鑑みなされたものであって、製作に要する手間と時間を従来よりも大幅に軽減することができ、また被揭示物を交換するときにおいてはこれをスピーディー

50

に行うことができると共に裏板の押さえを確実に行うことができ、加えてパネル本体の表面側から保持枠の基部端面が透けて見えないようにして、従来の如き安っぽい印象を払拭することができるようにした掲示用パネルを提供せんとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

而して、本考案の要旨とするところは、合成樹脂又はガラスで製作される透明なパネル本体の裏面に、保持枠を設け、該保持枠内において前記パネル本体と裏板との間に絵画等のシート状又は板状の被掲示物を挟み込むようにした掲示用パネルにおいて、前記保持枠を合成樹脂又はガラスによって成形すると共に該保持枠をパネル本体に接着剤をもって固定し、該保持枠の内面における高さ方向の中央部に凹部を形成する一方、該凹部にばね材からなる輪状の裏板押さえを撓めて嵌め込み、更に前記パネル本体の表面に、保持枠の形状に合わせた、保持枠の基部端面を隠すための飾り枠を取り付けたことを特徴とする掲示用パネルにある。

【考案の効果】

【0009】

本考案は上記の如き構成であり、保持枠を合成樹脂又はガラスによって成形すると共に該保持枠をパネル本体に接着剤をもって固定一体化するようになしたものであるから、製作する段階において従来の如きパネル本体への穿孔作業やネジのネジ込み作業が不要であり、製作に要する手間と時間を大幅に軽減することができるものである。尚、パネル本体と保持枠は共に合成樹脂又はガラス製であるから、液状の接着剤を用いることにより両者の接合面の全体にわたって接着剤を満遍なく塗布する必要がなく、適当な間隔において所々に塗布すれば、両者を合わせたときに合わせ目全体に広がるものであり、接着作業は簡単、迅速に行うことができるものである。また、従来のようにネジがパネル本体の表面に見えることによる見栄えの悪さも解消することができるものである。

【0010】

また、裏板の押さえ構造において、保持枠の内面における高さ方向の中央部に凹部を形成する一方、該凹部にばね材からなる輪状の裏板押さえを撓めて嵌め込むようになしたものであるから、被掲示物を交換するときにおいて、従来の如く押さえ片を一つ宛回す手間が省け、スピーディーに行うことができるものである。また、輪状の裏板押さえは撓められた状態で凹部に嵌め込まれているから、復元弾性力によって凹部内に強く食い込むことになり、凹部から外れることがない。したがって、裏板を確実に押さえることができるものである。

【0011】

また、パネル本体の表面に、保持枠の形状に合わせた、保持枠の基部端面を隠すための飾り枠を取り付けたことにより、パネル本体の表面側から保持枠の基部端面が透けて見えることによる見栄えの悪さを解消することができると共に、飾り枠の断面形状や色彩を適宜工夫することにより美感を高め、商品価値を高めることができるものである。

【考案を実施するための最良の形態】

【0012】

本考案を実施するための最良の形態は、保持枠を合成樹脂又はガラスによって成形すると共に該保持枠をパネル本体に接着剤をもって固定し、該保持枠の内面における高さ方向の中央部に凹部を形成する一方、該凹部にばね材からなる輪状の裏板押さえを撓めて嵌め込むようになし、更に前記パネル本体の表面に、保持枠の形状に合わせた、保持枠の基部端面を隠すための飾り枠を取り付けることにある。

【実施例】

【0013】

以下、本考案の実施例について図面を参照しつつ説明する。

図1は本考案の実施例に係る掲示用パネルの正面図、図2は裏板及び被掲示物を省略して示した斜視図、図3は図1中A部分の拡大断面図である。

【0014】

10

20

30

40

50

図中、1は合成樹脂又はガラスで製作される透明なパネル本体である。2は前記パネル本体1と同様の合成樹脂又はガラスによって成形される方形の保持枠であり、前記パネル本体1の裏面に接着剤をもって固定される。また、接着剤として液状の接着剤を用いれば、パネル本体1と保持枠2とは共に合成樹脂又はガラス製であるから、両者の接合面の全体にわたって接着剤を満遍なく塗布する必要がなく、適当な間隔をおいて所々に塗布すれば、毛細管現象により接着剤が引き込まれ、両者を合わせたときに合わせ目全体に広がるものである。よって接着作業を簡単、迅速に行うことができるものである。

【0015】

また、前記保持枠2の内面における高さ方向の中央部に凹部3を設ける一方、該凹部3にはね材からなる輪状の裏板押さえ4を撓めて嵌め込むようになし、これをもって裏板の押さえ構造となしている。また、5は前記保持枠2の適所に設けた吊り紐（図示せず。）の挿通孔である。 10

【0016】

6は前記保持枠2内に嵌め込む裏板である。7は前記保持枠2内において前記パネル本体1と裏板6との間に挟み込む、絵画や組み上がった状態のジグソーパズル等のシート状又は板状の被揭示物である。

【0017】

8は前記パネル本体1の表面に取り付けた、保持枠2の形状に合わせた、保持枠2の基部端面を隠すための飾り枠である。また、該飾り枠8は、前記パネル本体1及び保持枠2と同様に合成樹脂又はガラスによって成形されており、したがって、液状の接着剤を用いれば簡単、迅速に接着することができるものである。 20

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】本考案の実施例に係る揭示用パネルの正面図である。

【図2】裏板及び被揭示物を省略して示した斜視図である。

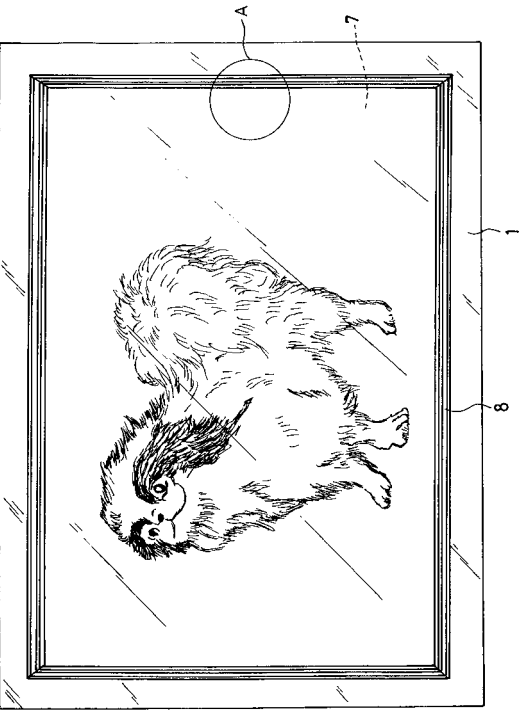
【図3】図1中A部分の拡大断面図である。

【符号の説明】

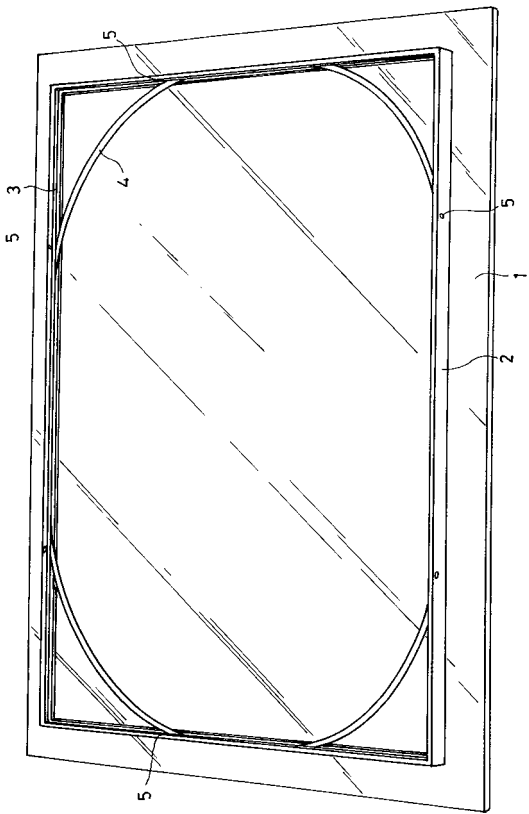
【0019】

- 1 パネル本体
- 2 保持枠
- 3 凹部
- 4 輪状の裏板押さえ
- 5 吊り紐の挿通孔
- 6 裏板
- 7 被揭示物

【図 1】



【図 2】



【図 3】

